

やパネル討論で減塩の取り組みに考えを深めた。

キャンペーン参加店は次の通り。

▽終日提供 れすとらん文化 味の味橋屋 韓国料理アリラン ラーメン一休 町国民保養センター 大漁バガボンド丸矢巾 レストランP

のイメージが強いが、全国的には1割ほどが女性。女性神職のイベントとして続けていきたい」と今後へ意欲を見せた。

娘のあいりちゃん(1)と参加した盛岡市門の田中真澄さん(38)は「子どもが健康やかに育ってくれることを願った。神職も女性たちで柔らかな雰囲気だった」と新鮮味を感じていた。

県産アカマツ活用 PRへベンチ開発

県庁・県民室で展示

盛岡

木材製造販売 売業マルヒ製

材(久慈市夏井町、日當粕太郎社長)とオフィス家具大手のイトーキ(本社大阪)などが、県産アカマツを使い共同開発したベンチや椅子が盛岡市内丸の県庁・県民室に設置された。3月末まで利用でき、アカマ

no みやじま

▽昼提供 創作和食あかり おとうふのとくたや CA F.E・FRAMINGO エコレストランあいのの カフェテラスK 食ボラ工房菜々彩 おいしいもの組合
▽夜提供 ほっこり処雪華 肉汁餃子バル又べる 飲み処政々 純活屋台まいと

ツの活用例としてPRする。

大型ベンチ2脚と椅子4脚に加え、簡易作業などが可能なワークブースを展示。アカマツの利用拡大を課題とするマルヒ製材と、デザイン力に優れたイトーキが復興庁の事業を契機に手を組み、塗装仕上げはシオン(矢巾町、石川公一郎代表取締役)が担った。

イトーキ東日本復興プロジェクト室の柏崎寛室長は「アカマツは白さと木目の



県庁の県民室に置かれた県産アカマツのベンチやワークブース

美しさが特長。支援ではなく、復興に向け一緒に岩手の木材をPRしたい」と話す。商品は1月から販売されており、マルヒ製材の日當和孝専務は「多くの人にアカマツの良さを知ってほしい」と願う。

県庁の後は、盛岡市のアイーナなどで展示を予定している。



◇日鞠(ひまり)ちゃん 3歳

◇盛岡市東見前 白沢雅彦さんの孫

